

コレクションづくりの実際

根本彰(東京大学)

1 「資料についての知識」とは何か

大森論文を読んでもらって議論する

資料のプロとは

資料と利用者を仲介するときに「付加価値」を与える

資料の「評価」ができること

「評価」とは

資料の差異を認識し、今の学術、文学、ジャーナリズム、

社会状況との対応関係を説明できること(「知」の構造への位置づけ)

資料のプロになるためには(大森論文を軸に)

たくさんの資料に触れること(3000冊読む?)

目を通す分野を広げる

出版広告、書評紙誌、出版業界紙誌、報道週刊誌、総合月刊誌に目を通す

書店に通う

ノートをつくる

評価は対象化することによって得られる

書評を書く

表現者を知る

著者、出版社についての知識

によって得られるが、意識的な調査も有効

研修講師になる

知識の整理と表現

相互訓練

選書実務への応用

近い将来、「ネットワーク上の情報についての知識」も問われることになる

2 出版流通と図書館の関係について

出版業界はどうなっているのかを知るために本を読む

佐野眞『だれが「本」を殺すのか』プレジデント社 2001

湯浅俊彦『デジタル時代の出版メディア』ポット出版 2000

藤脇邦夫『出版現実論』太田出版 1997

出版およびその流通との関係

資料の供給元

二次的配布者（ブックオフなどとの同一視）

出版物のショウウィンドウ

少数出版物（高価格本）のマーケット

市場で入手できない資料の提供者

文化環境の醸成

3 資料をどう選ぶか

演習

・課題：各自特定の図書館を想定し、その年間新刊図書購入費の500分の1の金額分の大人向けの本を別紙のリストから購入するとして、シミュレーションを試みよ。その際になぜその本を選ぶのかの理由を自分なりに確認し、明記しておくこと。

4 コレクションをどうつくるか

貸出図書館と調査研究図書館

以下は貸出図書館の場合

書店の「棚づくり」との比較（別紙資料）

「ないもの」への配慮

「欲しい本ほどない」

明定義人著『本の世界の見せ方』六夢堂、1997年6月

NDCは体系を重視した分類で実用的ではない

排架の変更（NDCの変更）

「実用書コーナー」（東浦和図書館）

野嶋尚子「東浦和図書館のコーナー別配架」『みんなの図書館』No. 252 1998.4

雑誌・新聞をどうするか

出版タイトル数からすると少ない

図書との組み合わせ

バックナンバー

時系列的なコレクション